

《カトリック大和高田教会 お知らせ》 2024年12月22日

典 礼 暦	日 時 など
待降節第4主日	12月22日 (日) 集会祭儀 10:30
主の降誕 (夜半ミサ)	12月24日 (火) ミサ 19:00
主の降誕 (日中ミサ)	12月25日 (水) ミサ 10:30
	12月26日 (木) ミサ 10:30
	12月28日 (土) (ミサはありません)
聖家族 (祝) 主日	12月29日 (日) ミサ 10:30
神の母聖マリア (祭)	1月1日 (水・元日) ミサ 8:30
	1月2日 (木) (ミサはありません)
	1月4日 (土) 8:00
主の公現 (祭) 主日	1月5日 (日) ミサ 8:30

【中央協議会】

- 菊池功枢機卿(すうききょう)を含む21名の枢機卿の叙任式が12月7日、バチカンのサン・ピエトロ大聖堂において執り行われました。ユーチューブ(Youtube)配信中です。右のQRコードで観ることができます。



【京都司教区】

- {聖年について}
 - ▶ 2024年12月24日(火)主の降誕の前日、聖ペトロ大聖堂の「聖なる扉」が教皇によって開かれ、聖年が開幕します。
 - ▶ 京都司教区では、大勅書の指示にしたがって司教座聖堂である河原町教会で司教様が12月29日、聖年開幕のミサを捧げます。



- 第二バチカン公会議を学ぶ ～シノドスの歩みのために～
【ZOOM 講座】 & 【対面分かち合い】 2024年7月～2025年4月
【ZOOM 講座：次回は2025年1月10日(金)】
詳細は、掲示板をご覧ください。

【奈良ブロック】

- ◎ 「奈良ブロック・典礼研修会」が開催されます。
日時：1月25日(土)、14:00～
講師：菅原友明神父様、会場：大和郡山教会
どなたでも参加出来ます。
- 【「聖書を学ぶ会」から】今年の講話(全四回)が Youtube で視聴できます。詳細は、掲示板をご覧ください。

【大和高田教会】

- 「聖書の分かち合い」(Sr.ローマ)：12月26日(木)ミサ後
- ◎ 「主のご降誕・夜半ミサ」について
 - ▶ 大和高田教会のミサ時刻は、19時からです。
ミサ終了時刻が遅くなりますのでご注意ください。
 - ▶ 近隣教会のミサ時刻は下記の通りですので、都合の良い教会でミサに与ってください。
大和郡山教会＝17時、富雄教会＝17時、御所教会＝17時
西大和カトリックセンター＝17時、大和八木教会＝19時、奈良教会＝19時、登美ヶ丘教会＝19時
- ◎ 1月から主日ミサは、**8時30分** からになります、ご注意ください。

◆ 教会掃除当番

- 2024年12月29日(日)ミサ後 : 奉仕日(全員)
※2025年1月5日(日)はお正月にかかりますので、前倒しで掃除を行います。お忙しいと思いますが、皆さまのご協力、よろしくお願いいたします。
- 2025年1月12日(日)ベトナム語ミサ後 : D地区

12月22日 待降節第4主日 ルカ1章39～45節 イエスとともに行く希望の巡礼

いよいよ主の降誕を前に、今日の福音はマリアのエリサベト訪問の箇所が朗読されます。先週から時間的には戻りますが、イエス誕生の前の出来事になります。この出来事を通してわたしたちはどのように主を迎えるべきかが語られているのではないのでしょうか。

今日の入祭の歌は「天よ露をしたたらせ」です。イザヤ書と詩編から組み合わせられていて、平和の君である救い主を待つ内容です。神学生時代、わたしたちはこの歌を「天つゆ」と呼んでいました。ちなみに降誕節の「やみに住む民は光を見た」の略称は「やみ民」でした。

さて、今日の福音ではマリアがエリサベトのもとを訪ねます。高齢で身ごもった、親戚のエリサベトを案じて身の回りの世話をしに行ったのでしょうか。マリアも身ごもっていましたがまだ妊娠初期か安定期だったのでしょうか。エリサベトが身ごもったのは神の導きがあったためですが、マリアも聖霊によって身ごもっています。エリザベトはそれを知っていたのか、マリアとおなかの赤ちゃんを祝福します。そして最後に「主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた方はなんと幸いです」と言います。マリアが幸いなのは、神の母であるからというよりも、神への信頼と信仰があるからなのです。実はエリザベトも自分の妊娠を神の力によるものであると信じていたのです。

しかし、この二人に限らず、すべての命は神から与えられたものです。そのことを信じ、神の恵みによって授かった命を神さまの子どもとして育てる親は同じように幸いですといえるでしょう。それは両親、またはどちらかが信者でなくても同じことです。すべての母親はエリサベトのようにおなかの赤ちゃんがおどる（動く）体験をしているはずですから。ところでクリスマスの前日、バチカンでは聖年の扉が開かれ、一年間の聖年が始まります。教皇が示されたテーマは「希望の巡礼者」です。今日の福音のマリアもエリサベトのもとを訪ねる巡礼者だといえるのではないのでしょうか。マリアのおなかにはイエス、エリザベトのおなかには洗礼者ヨハネがいるので、巡礼としては逆のように思うかもしれません。エリサベトも「どういうわけでしょう」と言っていますしね。

巡礼というと聖地を訪問するイメージがありますが、助けを必要とする人々とともに歩むことも巡礼です。それも「希望の巡礼者」ですから、希望のうちに巡礼するだけでなく、希望を分かち合う巡礼でもあります。マリアのエリサベト訪問はそのような巡礼なのです。

マリアはイエスを伴ってエリサベトを訪ねました。しかし、聖体を伴う病人訪問だけではありません。わたしたちの心の中にはイエスがおられます。あらゆる奉仕活動や人との交わりを神とのかかわりの中で行うとき、それは希望の巡礼となります。マリアもエリサベトのもとを訪ねたとき、ともに神の導きを喜びあい、楽しい時を過ごしたことでしょう。希望の巡礼の機会はいつどこにでも用意されているのです。 (柳本神父)